

Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。5年は先生の話聞くことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

話題1 先生の「意外なすごい人」（第6時）

板書： This is ～. He[She] can ～. [先生の家族や同僚の絵を1枚（写真でなくてよい）]

T This is my grandmother. She is 85.

先生のおばあちゃんです。85さい。

T She can't use a smartphone. (指で操作するふり→バツ)

スマホは使えません。（ここで子どもが笑ってもよい）

T But... she can make 100 rice balls in one hour!

でも…おにぎりを1時間に100こ作れます！（本気の顔で。数秒だまる）

S 100? Wow! Really?

（「100こ？」とざわつく。ここが今日の5分の山）

T Yes! She is my superstar. Who is your superstar?

そう！先生の「すごい人」です。みんなのすごい人はだれ？ペアで1人（1分×2回・相手を替えて）

つまった子への助け舟：思いつかない子には「家の人・きょうだい・友だち・先生」の4択で。英語で言えなくても、日本語で挙がれば先生がHe[She] can ～. に翻訳して返す。「すごい」は上手なことじゃなくてよい——先生の例が「おにぎり100こ」なのはそのため。

話題2 できることマップを読む（第7時）

板書： ～ friends can ～. Wow! [拡大した「できることマップ」に、2つだけ数えて書く]

T Look! Our can-do map. Ride a bike... 28 friends!

見て！クラスのできることマップ。自転車は…28人！（マスを指でなぞって止まる）

T Do kendama... two friends! Who? Can you do kendama?

けん玉は…2人！だれ？（本人に向かってたずねる）

S Yes, I can!

（できることだけ答える。できない人には聞かない）

T Everyone, together! Wow! Great!

みんなで、せーの！すごい！

S Thank you!

（言われた子はThank you! まで。この1往復が今日の型）

つまった子への助け舟：先に数えるのは2つだけ（多そうなcanと「レアなcan」の箱の1つ）。少ないcanの本人にたずね、0人なら「先生もできない！」と受ける。can'tの人数は数えない（活動3のルール）。

中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

ビンゴ大会②（第6時）のあとに全体で：「Yes をもらったとき、なんて返した？」とたずねて、黒板の Wow! / Really? / Me, too! の短冊3枚を指す。→ その横に「レアな can」の箱を描き、「Yes が1人だけだった動作」を子どもから集めて、動作だけ書きためる（3～4こで十分・名前は書かない）。ふやすのはこの箱1つだけ。この箱は第7時の活動3（できることマップ）まで消さない——Small Talk で数える「少ない can」の候補が、先に黒板にそろっている状態で第7時に入るため。（第5時の中間指導台本は「聞く人」の補給。こちらは「意外な発見」を拾う箱）

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello! / How are you?
くり返す	Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow! / Really? / Good!
たしかめる	Pardon? / One more time, please.
さらに質問	How about you? / Why?
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・5年のSmall Talkは先生の話聞くことが中心。ペアは1分×1回で成立する。ただし話題1で「100こ」と言ったあとの数秒はだまって待つ——子どもが「それってすごいのか？」と迷う沈黙が仕掛けそのもの
- ・話題1の仕掛けは「すごい人＝上手な人」の思いこみを外すこと。スマホが使えないおばあちゃんが主役になると、教室から「上手・下手」の物差しが消える。単元の地雷（できること自慢大会）はここでいちばん深く埋まる
- ・話題2はマップの「読み方」を見せる時間（残りは活動3で数える）。数えるのは動作ごとの人数で、人は並べない。レアな can の本人にだけ Can you ～? をたずね、できない人には聞かない——No, I can't. を人前で言わせる時間ではない

